

サークル活動をする上での注意事項（平成21年7月1日サークル顧問教員懇談会にて配布）

報道されている高校生や中学生での集団感染の事例から判るように、運動部やサークル活動の場は感染拡大を招きやすい環境です。本学においても、季節性インフルエンザだけでなく、サークル内で感染が広がった事例は数多くあります。

感染症というものは、“自分がかからなければいい”あるいは“かかってもすぐ治るのだから問題ない”という感覚ではその感染拡大を抑制することはできません。「免疫獲得のために新型インフルエンザにかかっておこう」と考える方もいるとは思いますが、自分が感染源となり他人に感染させる可能性がある以上、自ら進んで感染するという態度は真むべきです。

感染症は、言わば“おたがいさま”の疾患です。自分だけではなく、他人にも感染させないような行動をとらなければ、回り回って結局自分も感染する可能性があります。

新型インフルエンザ感染予防および感染拡大抑制のために必要な行動をお伝えします。

1. “十分な栄養”と“十分な休養”をとり、“うがい”・“手洗い”・“咳エチケット”を心がけて、感染“しない”こと

新型インフルエンザはほぼ全員が免疫をもたない疾患ですが、自分自身の抵抗力が十分であれば、ウイルス量が少ない場合は感染しない可能性もあります。感染予防は健康管理が一番です。

2. サークル代表者や顧問の方は、所属の学生に上記1の対応を徹底するようご指導頂き、感染“させない”こと

サークルのメンバーに健康管理を徹底させるとともに、遠征などでの移動手段の選択や合宿時の健康管理など、普段から健康管理・感染予防などを念頭においた活動を行ってください。

3. サークル内で感染が確認された場合には、その感染がサークル内で拡大しない処置を早急に行ってください、サークル外、大学内、学外に感染を“ひろげない”こと

直ちに、学生係等に連絡して頂き、感染が確認された者と濃厚に接触した者を早急に確認してください。

予防措置として濃厚接触者にはマスクを着用させ、極力外出を控えるようご指導ください。

また、濃厚接触者の健康状態の把握に努めてください。

※濃厚接触者に関しては保健所が調査を行い指定される可能性がありますが、同じ車に乗っていた、同室に宿泊した、その他密接な接触がある者についても同様に取ってください。

“しない・させない・ひろげない”を念頭にサークル活動に専念されてください。

遠征などの際は、健康科学センター等からも情報を入手してください。